

日本労働年鑑 第54集 1984年版
The Labour Year Book of Japan 1984

第二部 労働運動

XIII 政党

4 日本社会党

3 大会・中央委員会

(3) 第六二回中央委員会

統一地方選を目前にした三月一日、第六二回中央委員会が党本部で開かれた。飛鳥田委員長はあいさつで、「自治体に保守も革新もないといった無原則に流れたり、他野党候補の批判に重点を置いた選挙戦術は控えるべきだ」として、「すべての攻撃を中曽根に向けよう」と強調、選挙前の総決起集会の性格をもっていた。

田辺書記長代行を承認

先に急死した平林書記長の後任として、田辺副委員長を書記長代行に満場一致で承認した。田辺氏は、党務報告で、大会以後の院内外のたたかいの経過にふれながら、(1)憲法改悪阻止・軍拡路線反対、(2)減税実現、人事院勧告・仲裁完全実施などによる国民生活の防衛、などを対決点として、選挙闘争に勝利することをめざした八三年上期活動方針を提起した。質疑では、優生保護法へのとりくみを強める発言や、空母エンタープライズ寄港の現地からたたかいの状況も報告され、満場一致で報告を承認し、「空母エンタープライズの佐世保入港に反対する決議」を採択した。

内閣打倒前面に

また角屋選対委員長が「八三年政治決戦勝利のための当面の緊急対策方針」を提起、比例代表選挙の名簿登載順位や、運動の立ち遅れを克服するための意見などの質疑が交わされたあと採択された。さらに次期総選挙の候補者一七人(他に推薦一人)、参院七人の追加公認を決定、内閣打倒を前面に打ち出した「八三年政治決戦をめざす特別決議」を採択した。席上都知事選に革新統一候補として出馬する松岡英夫氏があいさつした(以上『社会新報』三月一五日付、『毎日』三月一二日付による)。

日本労働年鑑 第54集 1984年版

発行 1983年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 ●

2001年8月28日公開開始

